

平成30年3月30日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

新志会
会長 菅原 悟



政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第6条第2項の規定により、平成29年度政務活動の状況について報告いたします。

記

1. 調査事業

○京都府舞鶴市、綾部市、愛知県安城市視察

- (1) 実施日 平成29年12月17日(日)～19日(火)
- (2) 場所 舞鶴市引揚記念館・赤れんがパーク・海上自衛隊棧橋
綾部市都市交流拠点施設運営事業あやべ特産館・綾部バラ園・
グンゼ博物苑・グンゼ記念館
愛知県安城市 中心市街地拠点整備事業(図書情報館)視察
- (3) 参加者 新志会 会長 菅原 悟 幹事長 菅野 稔
会員 伊藤明彦 会員 蒲生 哲 4人

(4) 行程

- 12月17日(日) 陸前高田市6:50発～いわて花巻空港08時55分発(FDA352)～名古屋空港10時20分着～名古屋空港10時40分発～名古屋駅11時10分着～名古屋駅11時33分発～京都駅12時08分着～京都駅12時25分発～東舞鶴駅12時02分～舞鶴引揚記念館～赤レンガパーク～海上自衛隊～ホテルマーレたかた着
- 12月18日(月) ホテル出発8:30発～東舞鶴駅8時56分発～綾部駅9時24分着～タクシー～綾部市あやべ特産館・バラ園・グンゼ博物苑グンゼ記念館～タクシー～綾部駅～綾部駅10時59分発～京都駅12時07分着～京都駅12時18分発～名古屋駅12時53分着～名古屋駅13時02分発～安城駅13時27分着～議会事務局迎え～安城市中心市街地拠点整備事業(図書情報館)視察(13時45分～15時30分)～議会事務局ホテルまで送る～ホテルグランドティアラ安城
- 12月19日(火) ホテル発～安城駅発～名古屋駅着～名古屋駅よりタクシー～名古屋空港着～昼食～名古屋空港13時55分発(FDA355)～いわて花巻空港15時05分着～陸前高田市役所17時00分着

(5) 調査項目

- ① ユネスコ世界記憶遺産登録 舞鶴引揚記念館において
当時の引揚状況と遺産登録のながれ・観光資源
- ② 都市交流拠点運営事業の状況と課題
- ③ 中心市街地拠点整備の状況と図書情報館の役割



(6) 調査概要

12月17日(日) 午後東舞鶴駅到着後ユネスコ世界記憶遺産登録決定された舞鶴引揚記念館へ訪問し、館内では語り部さんから平和の願いを未来へと題し、昭和20年以降の引揚状況等資料を基に説明を受けました。

昭和20年(1945年)第二次世界大戦の終結にともない、当時海外に残された日本人は660万人以上ともいわれ、これらの方々をすみやかに帰国させなければならなくなり、これを[引き揚げ]といいます。

舞鶴港は、政府が指定した引揚港の一つとして、昭和20年10月7日第一 船雲仙丸2,100人がナホトカから入港後、昭和33年(1958年)9月7日白山丸472人真岡よりの最終船まで、実に13年間の長きにわたり、その使命を果たしました。

舞鶴では、主として旧ソ連(現ロシア連邦)、中国などの大陸からの引揚者を迎え、13年間に66万4,531人の引揚者と1万6,269柱の遺骨を受け入れ、終戦時、大陸に残された日本人およそ57万人がソ連へ送られ、その内の約47万2千人がシベリア各地のほか、コーカサス、北極圏等の収容所で長い年月、辛い抑留生活を強いられた。

徐々に風化しつつある引揚の歴史を後世に継承し、平和の尊さを広く発信するために舞鶴が行ってきた平和への取り組み等を研修いたしました。

12月18日(月) 朝ホテル出発し、綾部駅到着後、あやベグンゼスクエアへ

グンゼ博物苑(展示蔵・集蔵・今昔蔵・道光庵)・あやベ特産館・綾部バラ園の3つの施設で構成されています。

グンゼ創立100周年の1996年に、大正時代に使用されていた繭蔵を改造してグンゼ博物苑を開苑し、現在[あやベグンゼスクエア]として、綾部市の観光交流拠点のみならず、地域の方々の憩いの場となっています。

展示蔵には、

創業蔵 1Fでは、蚕糸業で使用していた機械や道具などを展示。

2Fでは、グンゼの創業当時のあゆみを近代史とともに振り返り、波多野鶴吉の目指した会社づくりを紹介

現代蔵 1Fでは、日常生活の中で発見する事ができるグンゼの製品やサービスを、各事業ごとに紹介。

2Fでは、インナーやパンストをはじめとするアパレル事業のこれまでのあゆみを紹介しています。

未来蔵 「明日をもっと、こちよく」をテーマに事業を展開するグンゼの最新の製品や技術を紹介しています。

展示品は、公開できるものから順次更新しています。

集蔵 展示会や発表会など、各種イベントに利用できる多目的スペースです。

今昔蔵 グンゼ博物苑の受付があります。

グンゼと綾部の「今と昔」を要約して紹介しています。

道光庵 創業者の波多野鶴吉は、贅沢を望まず、従業員とともに「道光館」と呼ばれた社宅に暮らしました。その社宅の一部を移築したのが「道光庵」です。

綾部バラ園 地元市民のボランティアによる手作りのバラ園

約120種類1,200本のバラが植栽。

あやベ特産館 地元綾部の農産物や特産品を販売。

グンゼ記念館 1896年(明治29年)に創業したグンゼには、当時の様子を知る事がで

きるさまざまな歴史的資料が遺されている。

是製絲(現:グンゼ)創業者 波多野 鶴吉

青年時代の挫折を経て、何鹿郡(いかるがぐん)に帰郷

小学校の教員から蚕糸業振興の道へ

波多野が愛した言葉「至誠」

経営に最も重要なものは繭でもなく資本でもなく、「社会からも、職工からも十二分に信用を得たる経営者その人であり、至誠の人というにほかならない」と語っている。

午後には、安城駅へ移動、駅へ安城市議会事務局が迎えにこられ、その後、平成 29 年 6 月 1 日オープンしたまちの賑わいと、情報の発信地「アンフォーレ」へ到着、会議室では、安城市議会議長石川孝文氏、安城市市民生活部アンフォーレ課図書情報係長天野美喜太氏、主幹(まちなか連携担当)横手憲治郎氏 3 名が視察研修を担当していただきました。

最初に石川議長より歓迎の挨拶をいただき、続いて新志会会長である菅原より視察対応していただきました御礼とお願いの挨拶をいたし、さらに東日本大震災の際のご支援にたいし、感謝の言葉を申し上げました。

その後、天野係長さんより資料をもとに約 1 時間、説明を受けました。

説明後、4 階建てのアンフォーレ内の施設の説明をいただきながら見聞させていただきました。

安城市は、昭和 27 年 5 月 5 日に市制を施行し、県下 13 番目の市として誕生農業都市として発展してきましたが、中部経済圏の中心、名古屋市の通勤圏内という地理的条件にも恵まれ昭和 35 年ごろから工場の進出、住宅団地の建設が盛んになり、急速に都市化が進み、市制施行当時約 3 万 8 千人であった人口は、平成 22 年度に 18 万人を超えた。

明治用水の豊かな水にはぐくまれ、かつては「日本デンマーク」と呼ばれ、多角形農業の導入や共同販売方式の確立などで全国に名を広め、今でもこの精神は脈々と受け継がれ、農作業の大型機械化、地域営農システムを取り入れた経営規模の拡充など都市近郊型農業の先進地として注目を集め、稲作、観葉植物、果樹などを栽培し、なかでも、イチジクは全国有数の出荷量を誇っています。

安城市は、「安城の三河万歳」「桜井町の棒の手」「桜井神社のまつり囃子」「不乗森神社の湯立神事」の 4 つが無形民族文化財の指定を受け、関係者の努力によって保存伝承が図られています。

平成 29 年 6 月 1 日オープンした、アンフォーレは、平成 14 年に更生病院郊外移転にともない、公社が土地取得後、構想策定懇話会、基本構想策定、基本計画策定、平成 24 年事業計画策定、実施方針等公表、特定事業の選定・評価結果の公表、平成 25 年募集要項の公表、事業者選定・評価結果の公表、事業契約の締結し、平成 26 年設計業務説明会、平成 27 年建設業務、平成 28 年建物竣工、平成 29 年供用開始し現在に至っています。

本館には、図書情報館・ホール・旅券等窓口・カフェ南館には、ドミー・暮らしの学校、駐車場(273 台)イベント広場、公園があり子供から高齢者の方々まで大勢の利用者で賑わっています。

午後 3 時 30 分まで 1 時間 45 分、アンフォーレ担当事務の方々の館内状況の案内をいただき有意義な視察研修させていただきました。

この 2 日間の研修を糧に陸前高田市の中心市街地のまちづくりや市内の観光振興・産業

振興・賑わいのまちづくりに向けて微力ながら鋭意活動することを肝に銘じ政務調査の報告とさせていただきます。

○気仙沼市視察

- (1) 実施日 平成30年3月14日(水)～3月15日(木)
- (2) 場所 宮城県気仙沼市 大島架橋磯草地区
- (3) 参加者 新志会 会長菅原 悟 幹事長 菅野 稔
 会 員 伊藤明彦 会 員 蒲生 哲

(4) 行程

3月14日(水) 陸前高田市～気仙沼市大島汽船～大島浦の浜港～
磯草地区大島架橋入り口～民宿海鳳

3月15日(木) 民宿海鳳～亀山～大島浦の浜港～大島汽船気仙沼港～陸前高田市

- (5) 調査項目 ① 気仙沼市大島架橋の進捗状況について
 ② 国道45号三陸沿岸道気仙沼湾大橋進捗状況について

(6) 調査概要

3月14日(水) 午後陸前高田市出発し、途中で昼食、その後大島汽船 到着、14時30分発大島浦の浜港着、民宿海鳳の自家用車で気仙沼市 議会議員菅原博信氏と同行磯草地区大橋架橋入り口付近で、気仙沼土木事務所大島架橋建設班技術主査(副班長)氏家尚宣氏と合流、資料を基に現地で説明を受けました。

事業の概要として、気仙沼湾に位置する大島は、本土との交通手段が船舶のみであり、住民の日常生活における利便性の向上や救急医療などの安全・安心の確保はもとより、当該圏域の観光振興及び地域間交流を図る観点からも架橋の整備が求められてきました。

さらに、平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」により大島地区の住民が長期間の孤立を余儀なくされるなどの甚大な被害を受けたことから、大島架橋の必要性が再認識され、災害時の緊急輸送路としての機能を向上させ、気仙沼市のまちづくり計画とも調整を図り、平成30年度の完成を目標に事業を推進します。

大島架橋による整備効果

※救急医療や災害時の安全・安心の確保

大島からの気仙沼私立病院までの搬送時間

架橋整備前(救急艇利用) 35分

架橋整備後(救急車利用) 20分

※生活の利便性の向上

大島からの遠方(仙台市)までの所要時間

架橋整備前(カーフェリー利用) 3時間20分

架橋整備(車両利用) 2時間40分

※物流コストの低減・観光客の増大

海上輸送からトラック陸送に変換して物流コスト低減及び観光客の増大

今後のスケジュール

※道路工事 ⇨⇨⇨⇨ 平成30年度完了

※架橋工事 ⇨⇨⇨⇨ 平成 30 年度完成

☆事業内容 事業費約 220 億円

※事業区間 国道 45 号(東八幡前)～(仮称)大島 IC

※事業期間 平成 23 年度～平成 30 年度

※延 長 L=約 2.7 k m

※車道幅員 6.5m 全幅員 10.5m

※道路諸元 道路規格第 3 種第 2 級 設計速度 60 k m/h

※事業区間 (仮称)大島 IC～浦の浜

※事業期間 平成 23 年度～平成 30 年度

※延 長 L=約 5.3 k m

※車道幅員 6.0m 全幅員 10.0m トンネル 6.0(9.5)m 架橋 6.0(9.5)m

※道路諸元 道路規格第 3 種第 3 級 設計速度 50 k m/h

気仙沼大島大橋(愛称:鶴亀大橋)の概要

※橋梁緒元

橋梁形式 鋼中路アーチ橋 橋 長 L=356m

支 間 長 L=297m 桁下高 H=32m以上

※特 徴

- ◆ 経済性、構造的に優れた最も合理的な形式です。
- ◆ 橋脚部の斜面が急峻なため、橋梁のバランスを確保できるアーチ形式を採用しています。
- ◆ 国内最大級の支間長とし、桁下の航路を確保しています。
- ◆ 橋梁本体を東北地方太平洋沖地震時の津波高以上で整備します。
- ◆ 周辺の風景に馴染むよう、白を基調とした配色にしています。

※ 見学会を開催

大島架橋本体工事が完了し、橋上を安全に歩行できる対策が整いましたことから平成 29 年 10 月 28 日に「気仙沼大島大橋見学会」開催しました。当日は天候にも恵まれ 7 回に分けて、約 400 人もの方々に見学していただきました。本土側から大島側へ、大島側から本土側へ歩いて渡っていただく初めての機会となり、参加された皆様から多くの歓声があがり、事業の進捗を足で実感いただきましたとのことでした。

今後のまちづくりや市政運営に貴重な視察研修であり、我々も視察研修を糧に今後の陸前高田市の市政に頑張っていく事を肝に銘じ視察報告とさせていただきます。